

ESPRIMO

ESPRIMO B531/D

製品ガイド

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 セキュリティ

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 お手入れ

8 トラブル
シューーティング

9 仕様

目次

本書をお読みになる前に	6
安全にお使いいただくために	6
本書の表記	6
Windowsの操作	8
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 パソコン本体前面	11
1.2 パソコン本体背面	12
1.3 パソコン本体内部	13
1.4 キーボード	14
第2章 取り扱い	
2.1 マウス	17
2.1.1 注意事項	17
2.1.2 マウスの基本設定を変更する	17
2.2 ディスプレイ	18
2.2.1 注意事項	18
2.2.2 解像度を変更する	18
2.2.3 拡大表示設定を変更する	19
2.3 サウンド	20
2.3.1 全体の再生音量を調節する	20
2.3.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する	20
2.3.3 機器や項目ごとの音量を調節する	21
2.3.4 オーディオ端子の機能を切り替える	22
2.4 省電力	23
2.4.1 省電力状態	23
2.4.2 電源を切る	25
2.4.3 省電力設定	26
2.4.4 「ディスプレイの電源を切る」	27
2.5 通信	28
2.5.1 有線LAN	28
2.5.2 無線LAN	28

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に	30
3.1.1 注意事項	30
3.2 本体カバー	31
3.2.1 注意事項	31
3.2.2 本体カバーを取り外す	31
3.2.3 本体カバーを取り付ける	32
3.3 メモリ	33
3.3.1 注意事項	33
3.3.2 取り付けられるメモリ	33
3.3.3 メモリを取り付ける	34
3.3.4 メモリを取り外す	36
3.4 コネクタの接続／取り外し	37
3.4.1 注意事項	37
3.4.2 ディスプレイコネクタ	37
3.4.3 USBコネクタ	38
3.4.4 オーディオ端子	39
3.4.5 LANコネクタ	39

第4章 セキュリティ

4.1 コンピューターウイルス	41
4.1.1 コンピューターウイルス対策	41
4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする	42
4.2.1 Windows Update	42
4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）	42
4.3 不正使用からのセキュリティ	43
4.3.1 BIOSのパスワード	43
4.3.2 セキュリティチップ	43
4.3.3 Portshutter	43
4.3.4 エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	44
4.4 パソコンの盗難防止	45
4.4.1 パソコン本体の施錠方法	45
4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法	45
4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意	46
4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時の ハードディスク上のデータ消去に関する注意	46
4.5.2 ハードディスクデータ消去	47
4.6 データのバックアップ	49

第5章 ソフトウェア

5.1 ソフトウェアの紹介	51
5.1.1 一覧表の見かた	51
5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア	52
5.1.3 サポート関連のソフトウェア	53
5.1.4 ユーティリティ	54
5.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア	57
5.1.6 メールソフト	57
5.1.7 Office製品	58
5.2 インストール	59
5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール	59
5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール	61
5.2.3 「i-フィルター」のインストール	61
5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール	61
5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール	61
5.2.6 Office製品のインストール	61
5.3 アンインストール	62
5.3.1 注意事項	62
5.3.2 アンインストール方法	62

第6章 BIOS

6.1 BIOSセットアップ	64
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた	65
6.2.1 BIOSセットアップを起動する	65
6.2.2 BIOSセットアップ画面	65
6.2.3 各キーの役割	66
6.2.4 BIOSセットアップを終了する	67
6.2.5 起動メニューを使用する	68
6.3 メニュー詳細	69
6.3.1 Infoメニュー	70
6.3.2 Systemメニュー	70
6.3.3 Advancedメニュー	71
6.3.4 Powerメニュー	73
6.3.5 Securityメニュー	74
6.3.6 Exitメニュー	74
6.4 設定事例集	75
6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う	75
6.4.2 起動デバイスを変更する	78
6.4.3 Wakeup on LANを有効にする	79
6.4.4 イベントログを確認する	79
6.4.5 ご購入時の設定に戻す	80

第7章 お手入れ

7.1 日常のお手入れ	82
7.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ	82
7.2 定期的なお手入れ	83
7.2.1 注意事項	83
7.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る	83
7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る	84

第8章 トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作	86
8.1.1 状況を確認する	86
8.1.2 以前の状態に戻す	86
8.1.3 セーフモードで起動する	87
8.1.4 トラブルシューティングで調べる	87
8.1.5 Windowsのヘルプで調べる	87
8.1.6 インターネットで調べる	88
8.1.7 診断プログラムを使用する	88
8.1.8 サポートの窓口に相談する	90
8.2 よくあるトラブルと解決方法	91
8.2.1 トラブル一覧	91
8.2.2 起動・終了時のトラブル	93
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	96
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル	98
8.2.5 エラーメッセージ一覧	106
8.3 それでも解決できないときは	109
8.3.1 お問い合わせ先	109

第9章 仕様

9.1 本体仕様	112
9.1.1 B531/D	112
9.2 CPU	115
9.3 ディスプレイ	116
9.3.1 解像度	116
9.4 コネクタのピン配列と信号名	117
廃棄・リサイクル	120
索引	121

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2011年12月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をクリックし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することができます。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

次のディスクは添付されていません。

ディスク名称
リカバリデータディスク
トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]

本パソコンに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報を読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
ESPRIMO B531/D	B531/D	本パソコン／パソコン本体	
Windows® 7 Professional 64 ビット版	Windows 7 (64 ビット版)	Windows 7	Windows
Windows® 7 Professional 32 ビット版	Windows 7 (32 ビット版)		
Windows® Internet Explorer® 9	Internet Explorer		
Microsoft® Office Professional 2010	Office Professional 2010		
Microsoft® Office Home and Business 2010	Office Home and Business 2010		
Microsoft® Office Personal 2010	Office Personal 2010		
Windows Media® Player 12	Windows Media Player		
Windows Live® メール Version 2011	Windows Live メール		
Windows Live® Messenger 2011	Windows Live Messenger		
Adobe® Reader®	Adobe Reader		
Corel® WinDVD®	WinDVD		
i- フィルター® 6.0	i- フィルター		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
ノートン™ アンチウイルス 2012	ノートンアンチウイルス		

Windows の操作

■ Windows のヘルプ

本書で説明されていない Windows の機能については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をクリックして表示される Windows のヘルプをご覧ください。

また、多くのソフトウェアでは「ヘルプ」をクリックしたり 【F1】 キーを押したりすることでヘルプが表示されます。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明している Windows の操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」 ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前に Windows が表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の ▲ をクリックします。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Live、Internet Explorer、Windows Media、Access、Excel、OneNote、Outlook、PowerPoint、Silverlight、DirectXは、米国 Microsoft Corporation および/またはその関連会社の商標です。

インテル、Intel、インテル Core、Celeron および Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Adobe、Readerは、合衆国および/またはその他の国におけるアドビシステムズ社の登録商標または商標です。

Corel、WinDVDはCorel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

「ナノイー」、「nanoe」 および「nanoe」マークはパナソニック電工株式会社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2011

1

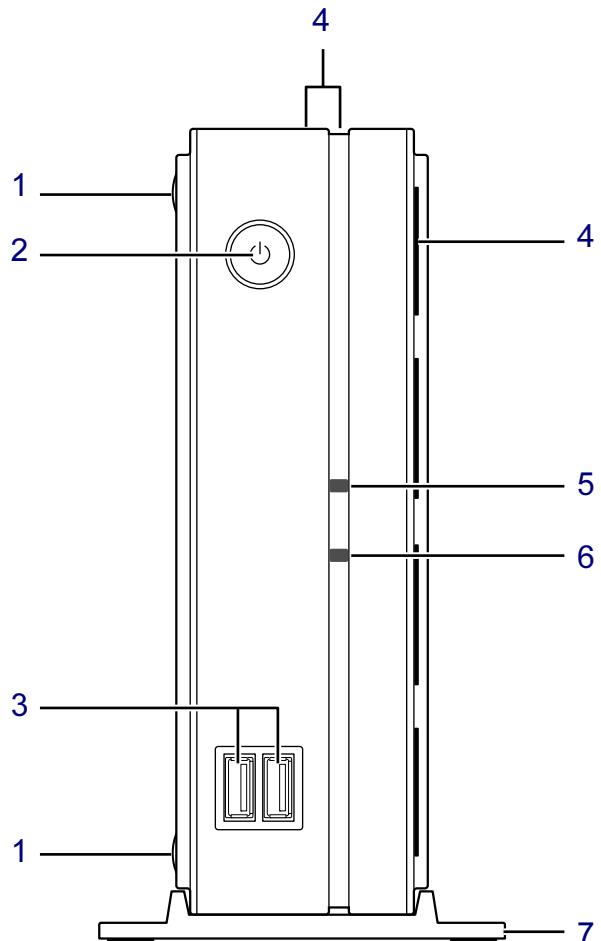
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面	11
1.2 パソコン本体背面	12
1.3 パソコン本体内部	13
1.4 キーボード	14

1.1 パソコン本体前面



1 ゴム足

2 ⏪ 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.23）にしたりします。

3 ⚡ USBコネクタ

（→P.38）

4 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

5 電源ランプ

本パソコンの電源が入っているときに緑色に点灯します。スリープ状態のときはオレンジ色に点灯します。

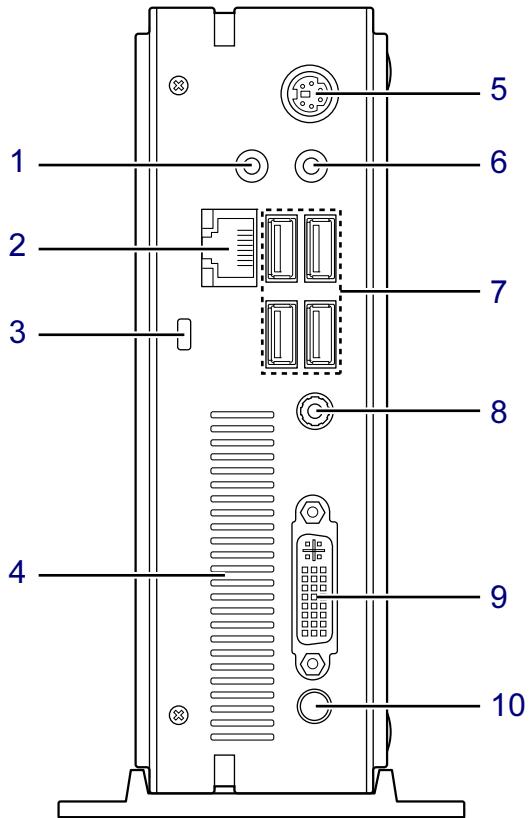
6 ディスクアクセスランプ

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

7 フット

本パソコンをお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

1.2 パソコン本体背面



1 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
(→P.39)

2 LANコネクタ
(→P.39)

3 盗難防止用ロック取り付け穴

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

5 キーボードコネクタ

6 マイク・ラインイン兼用端子
(→P.39)

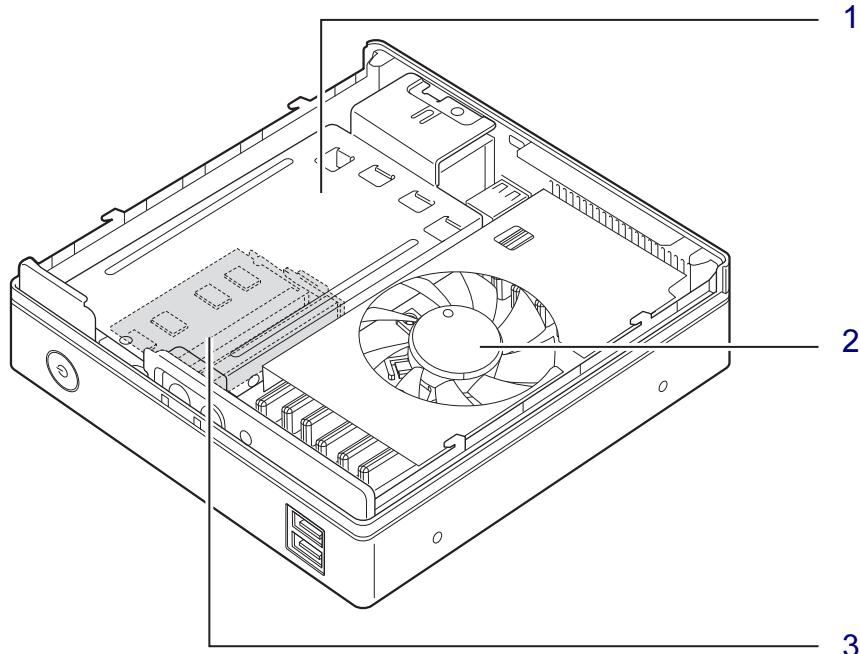
7 USBコネクタ
(→P.38)

8 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

9 デジタルディスプレイコネクタ
(DVI-I)
(→P.37)

10 固定スタッド

1.3 パソコン本体内部



1 内蔵ハードディスク

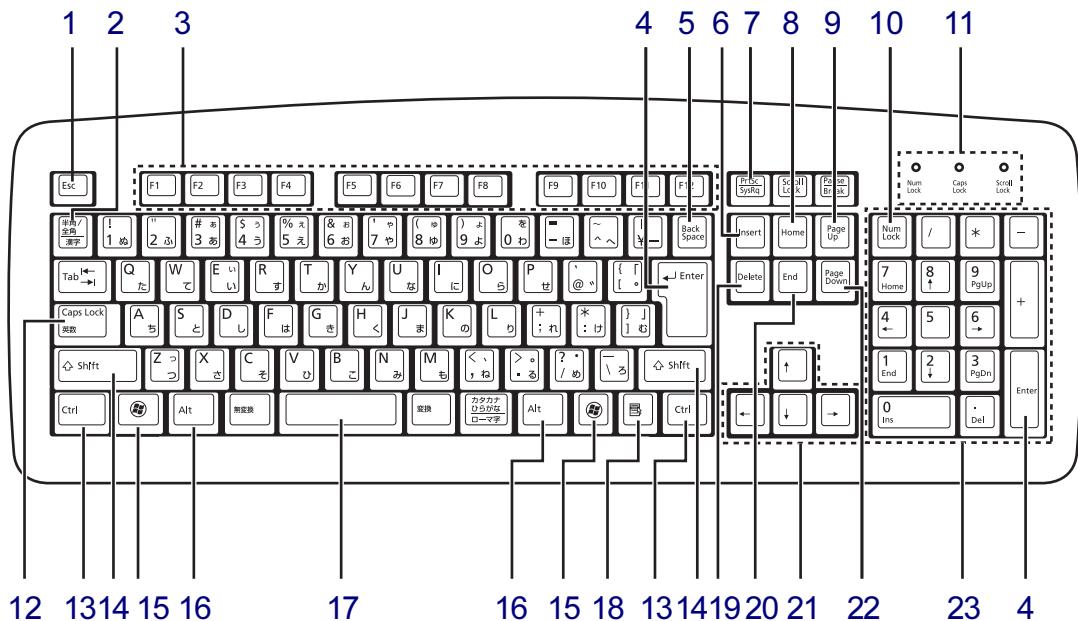
Serial ATA規格のハードディスクが取り付けられています。

2 CPUファン

メモリスロット
メモリを取り付けます。 (→P.34)

1.4 キーボード

対象 キーボード（別売）使用時



- 1 【Esc】キー**
- 2 【半角／全角】キー**
日本語入力のオン／オフを切り替えます。
- 3 【F1】～【F12】キー**
- 4 【Enter】キー**
- 5 【Back Space】キー**
- 6 【Insert】キー**
- 7 【Print Screen】キー**
- 8 【Home】キー**
- 9 【Page Up】キー**
- 10 【Num Lock】キー**
テンキーのモードを切り替えます。
- 11 インジケーター**
NumLock、Caps Lock、Scroll Lockの各機能のオン／オフを表示します。
- 12 【Caps Lock 英数】キー**
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字の入力を切り替えます。

- 13 【Ctrl】キー**
- 14 【Shift】キー**
- 15 【(Windows)】キー**
「スタート」メニューを表示します。
- 16 【Alt】キー**
- 17 【Space】キー**
- 18 【】（アプリケーション）キー**
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスの右クリックと同じ役割をします。
- 19 【Delete】キー**
- 20 【End】キー**
- 21 カーソルキー**
- 22 【Page Down】キー**
- 23 テンキー**
「Num Lock」インジケーター点灯時に数字が入力できます。
「Num Lock」インジケーター消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

■ キーボードの角度調節

キーボードの底面には、チルトフットが2ヶ所付いています。
チルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



2

第2章

取り扱い

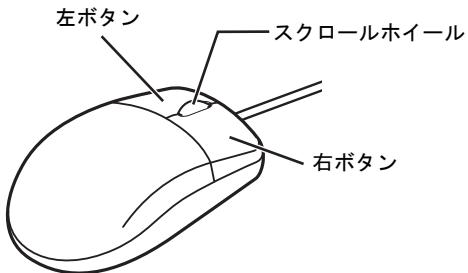
本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 マウス	17
2.2 ディスプレイ	18
2.3 サウンド	20
2.4 省電力	23
2.5 通信	28

2.1 マウス

対象 マウス（別売）使用時

ここでは、マウスについて説明しています。



2.1.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.1.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」
- 2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.2 ディスプレイ

ここでは、本パソコンに接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「3.4.2 ディスプレイコネクタ」(→P.37)をご覧ください。

2.2.1 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。

2.2.2 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。
「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。
- 3 「解像度」、「色深度」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「9.3.1 解像度」(→P.116)をご覧ください。
- 4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

☞ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.2.3 拡大表示設定を変更する

ディスプレイのサイズより小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

- 1 デスクトップで右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。
「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。
- 2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。
- 3 「スケーリング」を設定します。
 - ・画像を中央揃えする
画面は拡大されずに中央に表示されます。
 - ・全画面のスケール
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
 - ・縦横比を保持
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
 - ・ディスプレイスケーリングを保持
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

- 4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子（ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子）の機能の切り替え方法などについて説明しています。オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.4.4 オーディオ端子」（→ P.39）をご覧ください。

2.3.1 全体の再生音量を調節する

本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  をクリックします。
- 2 音量を調節します。

2.3.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するソフトウェアを起動します。
- 2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン  を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.3.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.21)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.21)をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.4.4 オーディオ端子」(→P.39)
- 2 画面右下の通知領域にある「音量」アイコン を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
- 3 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「レベル」タブをクリックします。
- 5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量（マイク入力設定時）
	ライン入力	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の再生音量（ライン入力設定時）
	Line Out	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の録音音量（マイク入力設定時）
	マイクブースト	マイクブーストのレベル
ライン入力	ライン入力	マイク・ラインイン兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.3.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1** オーディオ端子に機器を接続します（→P.39）。
- 2** 画面右下の通知領域にある「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコン  をダブルクリックします。
「Realtek HD オーディオマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** ウィンドウ右にあるオーディオ端子のアイコンをダブルクリックします。
機能を選択するウィンドウが表示されます。
- 4** 機能を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」にチェックを付けると、機器を接続したときに機能を選択するウィンドウを表示させることができます。

2.4 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.4.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しづつ消費しますが、素早く復帰できます。休止状態ではハードディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。また、本パソコンでは、ハイブリッドスリープにすることもできます。ハイブリッドスリープでは、作業中のデータをメモリとハードディスクの両方に保存します。そのため、電源が入っているときはスリープ状態のように素早く復帰でき、電源が切れた場合でも元の状態に復帰できます。ハイブリッドスリープが有効になっていると休止状態は使用できません。ハイブリッドスリープの設定を変更するには、「■ ハイブリッドスリープの設定を変更する」(→P.25)をご覧ください。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやマウスなどから入力をすると画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
「スタート」メニューから選択する	選択した動作になります。
電源ボタンを押す ^注	Windowsが終了し、電源が切れます。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.26)
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.26)

注：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
キーボードやマウスを操作する ^{注1}	レジュームします。
Wakeup on LAN (WoL) 機能	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.24)

注1：休止状態からはレジュームしません。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。電源オフ状態から起動する機能については、「6.4.3 Wakeup on LANを有効にする」(→P.79)をご覧ください。

- 1 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
- 3 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 4 次のデバイスをダブルクリックします。
Realtek PCIe GBE Family Controller
- 5 「電源の管理」タブをクリックします。
- 6 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

- 7 「OK」をクリックします。

■ハイブリッドスリープの設定を変更する

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 4 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。
- 5 設定を変更し、「OK」をクリックします。

2.4.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切れます。

□「スタート」メニューから操作する

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 「スタート」ボタン→[シャットダウン] の [] →「再起動」の順にクリックすると、パソコン本体を再起動できます。

□ 電源ボタンを押す

1 電源ボタン（→P.11）を押します。

ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずにパソコン本体の電源が切れてしまいます。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→ P.26）をご覧ください。

2.4.3 省電力設定

ご利用の状況に合わせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約することができます。

■ 電源プランを切り替える

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- ▶ 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5 「OK」をクリックします。

2.4.4 「ディスプレイの電源を切る」

ディスプレイの電源を切り、消費電力を抑える機能です。マウスやキーボードを操作することで、すぐに元の画面に復帰できます。

■ 注意事項

- 映像を取り扱うソフトウェアを使用中は、「ディスプレイの電源を切る」を使用しないでください。
- Windowsの電源オプションと関係なく動作します。

■ デスクトップアイコンからディスプレイの電源を切る

- 1 デスクトップにある「ディスプレイの電源を切る」アイコン  をダブルクリックします。

■ 「スタート」メニューからディスプレイの電源を切る

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスプレイの電源を切る」→「ディスプレイの電源を切る」の順にクリックします。

2.5 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.112) をご覧ください。

2.5.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.4.5 LANコネクタ」(→P.39) をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

2.5.2 無線LAN

対象 無線LAN搭載機種

無線LANについては、『内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	30
3.2 本体力バー	31
3.3 メモリ	33
3.4 コネクタの接続／取り外し	37

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、ACアダプタを取り外した後、充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 本体カバー

パソコン本体内部に周辺機器を取り付けたり取り外したりする場合には、本体カバーを取り外す必要があります。ここでは本体カバーの取り付け／取り外し方法について説明しています。

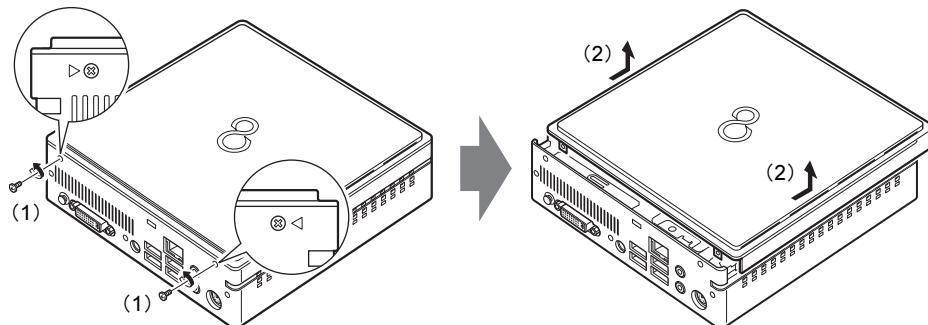
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.30)をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- 作業はパソコン本体が滑らないような平らな台の上で行ってください。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。

3.2.2 本体カバーを取り外す

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
- 2 フット(→P.11)を取り付けている場合は、フットを取り外します。
- 3 パソコン本体を横置きにします。
- 4 (1) パソコン本体背面の△印のネジ（2ヶ所）を外し、(2) 本体カバーをパソコン本体前面側にスライドさせてから上に持ち上げて取り外します。



重要

- ▶ △印のネジ以外は、外さないでください。

3.2.3 本体カバーを取り付ける

「3.2.2 本体カバーを取り外す」(→P.31)と逆の手順で作業をしてください。

3.3 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.30)をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。

3.3.2 取り付けられるメモリ

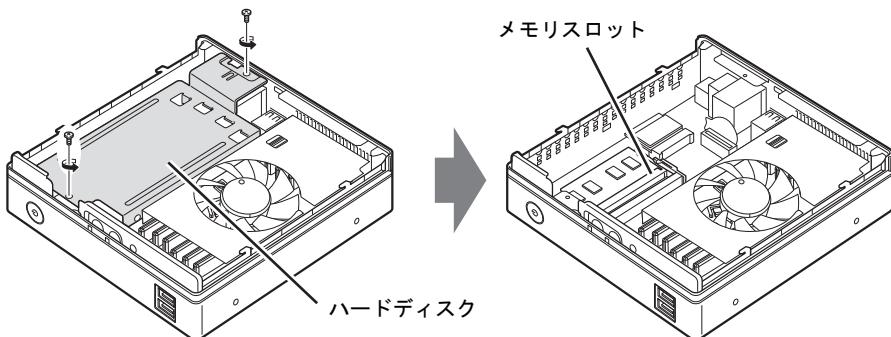
メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

メモリスロット1	メモリスロット2	総容量	Windows 7 (64ビット版)	Windows 7 (32ビット版)
2GB	—	2GB	○	○
2GB	2GB	4GB	○	○ ^注

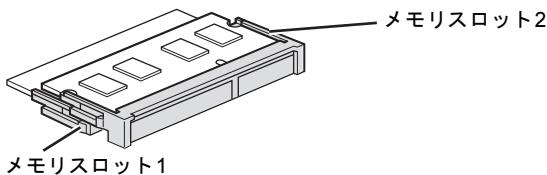
注：OSが使用可能な領域は約3GBになります。

3.3.3 メモリを取り付ける

- 1 本体カバーを取り外します（→P.31）。
- 2 ネジ（2ヶ所）を外し、ハードディスクを取り外します。

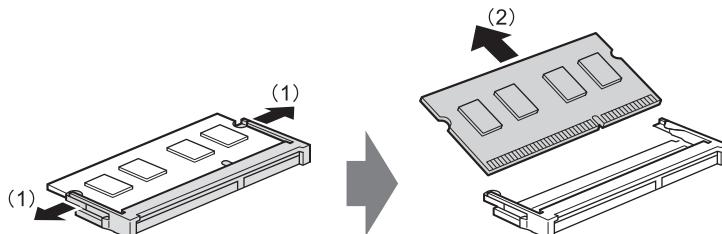


- 3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。



●メモリスロットにメモリが取り付けられている場合

- (1) メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除し、(2) メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



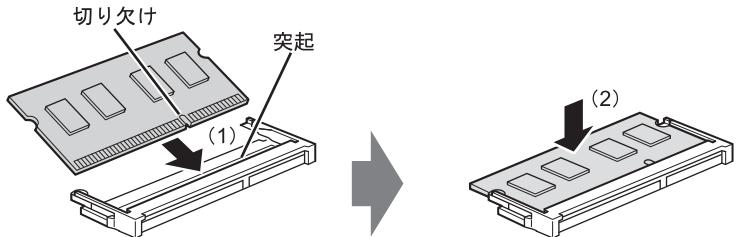
重要

▶ メモリスロット1のメモリを取り外すときは、メモリスロット2のメモリを取り外してから、メモリスロット1のメモリを取り外してください。

- メモリスロットにメモリが取り付けられていない場合
- 次の手順に進みます。

4 メモリを取り付けます。

(1) メモリの欠けている部分とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込み、(2) メモリスロット両側のフックが閉じてメモリを固定するまで、下に倒します。フックがメモリを固定していることを確認してください。

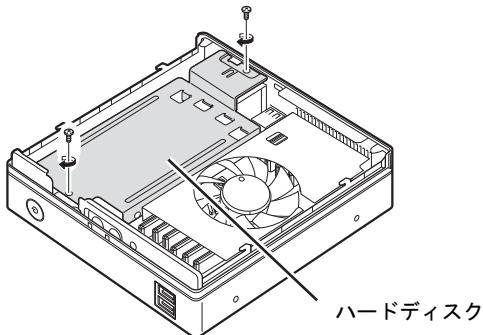


☞ 重要

- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 ハードディスクを取り付けます。

ハードディスクを取り付け、ネジ（2ヶ所）で固定します。



6 本体力バーを取り付けます（→P.32）。

7 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.65）をご覧になり、「Info」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

☞ 重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.3.4 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。



- ▶ 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.4 コネクタの接続／取り外し

ここでは、パソコン本体のコネクタに、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

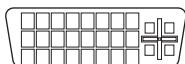
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.112)をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.30)をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.4.2 ディスプレイコネクタ



デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I)

ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

□ デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I)

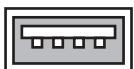
- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I) に、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

□ デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.3 USBコネクタ



USB対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

※ 重要

▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 - 1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
 - 2 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

☞ 重要

- ▶ マイク・ラインイン兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

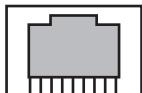
■ 接続する

- 1 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子またはマイク・ラインイン兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.4.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

☞ 重要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

4.1 コンピューターウイルス	41
4.2 Windows やソフトウェアを最新の状態にする	42
4.3 不正使用からのセキュリティ	43
4.4 パソコンの盗難防止	45
4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意	46
4.6 データのバックアップ	49

4.1 コンピューターウイルス

4.1.1 コンピューターウイルス対策

■ ノートンアンチウイルス

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「ノートンアンチウイルス」が添付されています。

□ 注意事項

- 「ノートンアンチウイルス」を起動していると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかつたり、不具合が発生したりすることがあります。ご注意ください。

□ インストール方法

「5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール」(→P.61) をご覧ください。

□ ウィルス定義ファイルの更新（LiveUpdate）

「ノートンアンチウイルス」のウィルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。ウィルス定義ファイルは、自動的に更新する方法と、手動で更新する方法があります。詳しくは「ノートンアンチウイルス」のヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

4.2 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする

Windowsやソフトウェアの脆弱性が悪用されると、コンピューターウィルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。

Windowsやソフトウェアの修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

4.2.1 Windows Update

マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windowsを最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4.2.2 UpdateAdvisor（本体装置）

弊社が提供するサポート機能です。お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。スタートメニューの「UpdateAdvisor（本体装置）」から起動できます。

4.3 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用からパソコンを守るため、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

☞ 重要

- ▶ コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかる状態では、保証期間にかかる修理は有償となります。
- ▶ パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

4.3.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけがパソコンを起動できます。

また、コンピューターのハードディスク自体にパスワードを設定できます。

詳しくは、「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.75)をご覧ください。

4.3.2 セキュリティチップ

対象 セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、Windowsログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。

セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

POINT

- ▶ セキュリティチップを使った、SMARTACCESS/Basicの機器監査機能は使用できません。

4.3.3 Portshutter

USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。USB機器ごとに接続ポートの有効・無効を設定できます。

詳しくは、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

4.3.4 エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュー・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファーオーバーフロー脆弱性を防止する機能です。詳しくは、「9.2 CPU」(→P.115)をご覧ください。

4.4 パソコンの盗難防止

パソコン本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

4.4.1 パソコン本体の施錠方法

パソコン本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「1章 各部名称」(→P.10)をご覧ください。

POINT

- ▶ 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syuskou/>)をご覧ください。

4.4.2 セキュリティ施錠金具の使用方法

対象 セキュリティ施錠金具対応機種

1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。

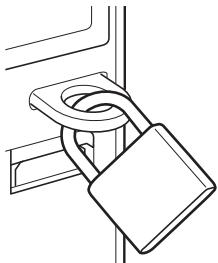
本体カバーの取り扱い方は、「3.2 本体カバー」(→P.31)をご覧ください。

POINT

- ▶ セキュリティ施錠金具の穴径は、Φ8mmです。

2 セキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。

セキュリティ施錠金具の位置は、「1.2 パソコン本体背面」(→P.12)をご覧ください。



(イラストは機種や状況により異なります)

POINT

- ▶ 市販の鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

4.5.1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

パソコンユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

4.5.2 ハードディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。
必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- 光学ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVDドライブを接続してください。
ポータブルCD/DVDドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を用意してください。

- 1 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 「6.2.5 起動メニューを使用する」(→P.68) をご覧になり、光学ドライブから起動します。**
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。**
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 4 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。**
データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

重要

- ▶ フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ハードディスクデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

- 5 「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」を取り出します。**
- 6 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。**

4.6 データのバックアップ

本パソコンには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup2」が添付されています。必要に応じてお使いください。

「Easy Backup2」のインストール方法については、「5.2 インストール」(→P.59)をご覧ください。

5

第5章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されている
ソフトウェアの概要や、インストール、アンインス
トール方法を説明しています。

5.1 ソフトウェアの紹介	51
5.2 インストール	59
5.3 アンインストール	62

5.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」などに格納されています。

また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。

各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
 - ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
 - 「5.2 インストール」(→P.59)をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
 - インターネット上のマニュアル (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/>) の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

● 提供形態について

- ▼：ご購入時にインストール済み
- ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
- ：「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」に格納
- ☆：各ソフトウェアのディスクに格納

「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。 ・お使いになるには、「Windows® Internet Explorer® 7」以降が必要です。	◇
Portshutter	USBポートや光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	○
SMARTACCESS/ Basic	対象 セキュリティチップ搭載機種 セキュリティチップを使用するためのソフトウェアです。	○
ノートン アンチウイルス	コンピューターウィルスを検出・駆除します。 詳しくは、「4.1.1 コンピューターウィルス対策」(→P.41) をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテック・テクニカル・サポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」(→P.109) をご覧ください。	◇
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「4.5.2 ハードディスクデータ消去」(→P.47) をご覧ください。	○

5.1.3 サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	○
UpdateAdvisor (本体装置)	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	▼
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。 デスクトップの「サポートナビ」アイコンから起動できます。	▼

5.1.4 ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。	▼
CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU	あらゆるデータソースを元に、対話形式でレポートを簡単にデザインできます。作成したレポートをWebアプリケーションに埋め込むことができます。レポート上で並べ替えやフィルタリングも可能です。 ・インストール後30日間ご試用いただけます。 ・無償サポート期間と無償アップデート期間は30日間（試用期間）です。	○
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	○
Googleツールバー	「Internet Explorer」のツールバーにある検索キーワード入力欄から、検索サービスサイト「Google」にアクセスして検索できます。検索キーワードを入力するときに関連語句のヒントが表示されたり、検索履歴を簡単に見ることができるなどの便利な機能も含まれます。	▼
IndicatorUtility	<p>対象</p> <p>Kシリーズ</p> <p>「明るさ調整ボタン」で画面の明るさを操作した場合に、デスクトップ上にインジケーターを表示します。</p>	▼
Plugfree NETWORK	<p>対象</p> <p>無線LAN搭載機種</p> <p>「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。</p>	▼
Quality Gaaiho PDF Suite	<p>対象</p> <p>D751シリーズ、D581シリーズ</p> <p>PDFファイルの作成や編集を行う「Gaaiho Doc」と、Microsoft® Office 製品や印刷機能のあるソフトウェアからの出力データをPDFファイルにする「Gaaiho PDF」からなる、PDF作成、編集、変換ツールです。 ・試用開始時にはインターネットへの接続とユーザー登録が必要です。 ・無償サポート期間と無償アップデート期間は90日間です。</p>	◇

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態
Systemwalker Desktop Patrol Lite	<p>パソコンの使用状況（電力量、電力料金、CO₂排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりすることができます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。</p> <p>省電力設定については、「国際エネルギースタープログラム」のエネルギースター適合基準を基に、モニターの電源を切る時間、およびスリープに移行する時間を設定します。</p>
T-SATA2R Manager	<p>対象</p> <p>RAID搭載機種</p> <p>Windows上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うためのRAID管理ユーティリティです。</p> <p>詳しくは、『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。</p>
Windows Live Messenger	<p>対象</p> <p>Kシリーズ、D551シリーズ</p> <p>インターネットに接続している環境で、リアルタイムでメッセージを交換することができます。</p>
お手入れナビ	<p>対象</p> <p>24時間モデル</p> <p>パソコンの使用時間や温度を基準に、パソコンのお手入れ時期がきたことをお知らせします。</p> <p>メッセージが表示されたときは、指示に従ってお手入れをしてください。お手入れ方法については、「7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る」(→P.84) をご覧ください。</p>
省電力ユーティリティ	<p>対象</p> <p>Kシリーズ</p> <p>Windowsの稼働中に省電力モードを利用できます。省電力モードの設定方法については「2章 取り扱い」(→P.16) の「省電力ユーティリティ」をご覧ください。</p>
ディスプレイの電源を切る	<p>簡単な操作でディスプレイの電源を入れたり、切ったりできます。詳しくは、「2.4.4 「ディスプレイの電源を切る」」(→P.27) をご覧ください。</p>

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
ナノイー ユーティリティ	<p>対象</p> <p>K552シリーズ</p> <p>「ナノイー」放出のオン・オフの切り替え、終了時間を指定する終了タイマーの設定などを行えます。 詳しくは、「2章 取り扱い」(→P.16) の「「nanoe（ナノイー）」放出機能」をご覧ください。</p>	▼
富士通拡張機能 ユーティリティ	本パソコンのハードウェア拡張機能をサポートします。	▼
富士通モニタ ユーティリティ	<p>「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイを接続し、プライマリモニターに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなどを設定したりすることができます。</p> <p>「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイについては、ディスプレイに添付のマニュアルまたは富士通製品情報ページ(http://www.fmworld.net/biz/) にあるディスプレイの製品情報をご覧ください。</p>	○
無線LAN電波オン／ オフツール	<p>対象</p> <p>無線LAN搭載機種</p> <p>お使いのコンピューターに搭載された無線LANの電波を、発信・停止するツールです。</p>	▼
ゆったり設定2	パソコンをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	○

5.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Roxio Creator	パソコンのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、「2章 取り扱い」(→P.16) の「ディスクに書き込む」およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	▼
WinDVD	対象 スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種、 DVD-ROMドライブ（ユニット）搭載機種 映画や音楽などのDVDを再生できます。 使用方法については、「2章 取り扱い」(→P.16) の「DVD-Videoを再生する」をご覧ください。	☆

5.1.6 メールソフト

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	▼

5.1.7 Office製品

対象 Kシリーズ、Dシリーズ

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。

ご購入時にOfficeはインストールされています。お客様が作成したリカバリデータディスクでリカバリを実行した場合、Officeはインストールされます。

POINT

- ▶ 製品に添付されているリカバリデータディスクを使用してリカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。添付のOfficeパッケージのディスクから、別途インストールしてください。

Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.51)をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要／提供形態
Microsoft® Office Professional 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ
	Microsoft® Excel® 2010	表計算
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート
	Microsoft® Access® 2010	データベース
	Microsoft® Publisher 2010	ビジネスパブリッシング
Microsoft® Office Home and Business 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ
	Microsoft® Excel® 2010	表計算
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理
	Microsoft® PowerPoint® 2010	プレゼンテーション
	Microsoft® OneNote® 2010	デジタルノート
Microsoft® Office Personal 2010	Microsoft® Word 2010	ワープロ
	Microsoft® Excel® 2010	表計算
	Microsoft® Outlook® 2010	情報管理

5.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。

データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

※ 重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- ▶ 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンしてからインストールしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

- ・トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
- ・「Corel® WinDVD®」ディスク

※ 重要

- ▶ これらのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ▶ ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 3. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

- 3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。**
- 4 「ソフトウェア」から、インストールするソフトウェアを選択します。**
「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。
- 5 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。**
次のソフトウェアはインストール方法が異なります。
 - **Adobe Reader**
「AdbeRdr1000_ja_JP.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。
 - **Portshutter**
「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。
 - **Roxio Creator**
「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。
 - **WinDVD**
表示されたフォルダー内の「DVDrreamble.txt」をご覧ください。
 - **CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU**
表示されたフォルダー内の「Crystal Reports 2008 for Fujitsu インストールガイド.pdf」をご覧ください。インストールに必要な試用版のライセンスキーは、次のとおりです。
CTKOU-Z488BTD-OMOMYCJ-4FXT
「Crystal Reports 2008 30-Day Evaluation.txt」に記載されているライセンスキーは、使用できません。

POINT

- ▶ インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

● Portshutter

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

● Roxio Creator

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

● WinDVD

表示されたフォルダー内の「DVDrreamble.txt」をご覧ください。

● CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

表示されたフォルダー内の「Crystal Reports 2008 for Fujitsu インストールガイド.pdf」をご覧ください。インストールに必要な試用版のライセンスキーは、次のとおりです。

CTKOU-Z488BTD-OMOMYCJ-4FXT

「Crystal Reports 2008 30-Day Evaluation.txt」に記載されているライセンスキーは、使用できません。

5.2.2 「ノートンアンチウイルス」のインストール

C ドライブに格納されています。

- 1 次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールします。

対 象 Kシリーズ、D551シリーズ、Bシリーズ

C:\Fujitsu\bundle\NAV\Fujitsu_Ltd_NAV_19.0_OEM90_21194698.exe

対 象 D751シリーズ、D581シリーズ

C:\Fujitsu\bundle\NAV\Fujitsu_Ltd_NAV_18.5_OEM90_21164437.exe

- 2 インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

5.2.3 「i-フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:\Fujitsu\bundle\I-Filter\Readme.txt

5.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

5.2.5 「Quality Gaaiho PDF Suite」のインストール

C ドライブに格納されています。

次のファイルを実行し、表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

C:\Fujitsu\bundle\GaaihoPDF\GaaihoWorks.exe

インストール後は、次のファイルをご覧になりお使いください。

C:\Fujitsu\bundle\GaaihoPDF\Gaaihoデモ版ご利用開始方法.pdf

5.2.6 Office製品のインストール

Office製品のインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

5.3 アンインストール

5.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
 - DLLファイルは削除しないこと
- アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- ▶ 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
 - ・セキュリティチップ

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1 BIOSセットアップ	64
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた	65
6.3 メニュー詳細	69
6.4 設定事例集	75

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- ・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
- ・起動デバイスを変更するとき
- ・Wakeup on LANの設定を変更するとき
- ・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

※重要

- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.77）してください。
BIOSセットアップ画面が表示されます。

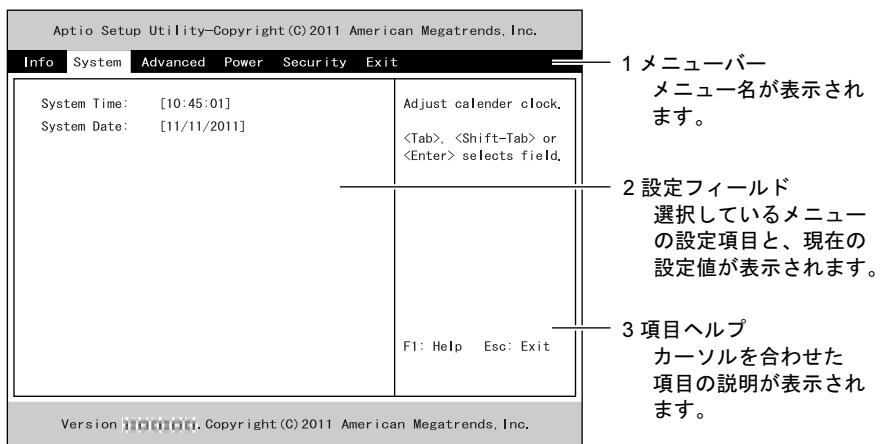
POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「6.2.3 各キーの役割」（→P.66）をご覧ください。



6.2.3 各キーの役割

BIOSセットアップで使う、主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOSセットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーまたは【Enter】キーを押します。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。 【Page Down】【Page Up】キーを押すと、ページ単位でカーソルを移動することができます。
【-】【Space】キー	各項目の設定値を変更します。
【Esc】キー	「Exit」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	<ul style="list-style-type: none">・▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。・設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。

6.2.4 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

- 1 「Exit」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「Exit」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2~3回押してください。
- 2 「Exit Saving Changes」または「Save & Turn-Off」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。「Exit Saving Changes」を選択した場合はWindowsが起動し、「Save & Turn-Off」を選択した場合はパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

- 1 「Exit」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「Exit」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2~3回押してください。
- 2 「Exit Discarding Changes」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

- 3 「No」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

重要

- ▶ 「Yes」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「No」を選択してください。

6.2.5 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

- 1 本パソコンの電源を入れます。**
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。**
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.77）してください。
起動メニューが表示されます。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

- 3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。**
選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

6.3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。

BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	説明
Info (→P.70)	BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。
System (→P.70)	日時を設定します。
Advanced (→P.71)	内蔵デバイスや周辺機器などを設定します。
Power (→P.73)	停電復旧時の動作や、Wakeup on LAN機能などを設定します。
Security (→P.74)	パスワードなどのセキュリティ機能を設定します。
Exit (→P.74)	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

☞ 重要

- ▶ BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。
あらかじめご了承ください。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合、設定変更のできる項目が制限されます。制限された項目はグレーに表示されます。
- ▶ 次の表は、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合に変更できる項目です。

メニュー	設定項目	
System	System Time	
	System Date	
Advanced	Event Logging	View Event Log
Security	Set User Password	
Exit	Exit Save Changes	
	Save & Turn-off	
	Exit Discarding Changes	

6.3.1 Infoメニュー

BIOSやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

設定項目	備考
Product Name	
Configuration ID	
Serial Number	
BIOS Version	
Processor Type	
Total Memory	1MB=1024 ² バイト換算
DIMM1	1MB=1024 ² バイト換算
DIMM2	1MB=1024 ² バイト換算
Onboard MAC Address	
UUID	

6.3.2 Systemメニュー

設定項目	備考
System Time 00 : 00 : 00 ~ 23 : 59 : 59	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】+【Tab】キー……左の項目に移動
System Date 2011/01/01 ~ 2099/12/31	【Tab】キー／【Enter】キー……右の項目に移動 【Shift】+【Tab】キー……左の項目に移動

6.3.3 Advancedメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
Boot Device Priority	OSを読み込むデバイスの優先順位を設定 ^{注1} ・「6.4.2 起動デバイスを変更する」(→P.78)
1st Boot Device	
■! Removable Drives	
□ Hard Disk Drives	
□! CD/DVD Drives	
□ Network Boot	
2nd Boot Device	
□! Removable Drives	
■ Hard Disk Drives	
□! CD/DVD Drives	
□ Network Boot	
3rd Boot Device	
□! Removable Drives	
□ Hard Disk Drives	
■! CD/DVD Drives	
□ Network Boot	
4th Boot Device	
□! Removable Drives	
□ Hard Disk Drives	
□! CD/DVD Drives	
■ Network Boot	
Hard Disk Drives Priority	ハードディスクドライブが複数接続されている場合のそれぞれの優先順位 ・「6.4.2 起動デバイスを変更する」(→P.78)
1st Boot Device	
[デバイス名]	
Network Boot Devices Priority	ネットワーク起動に対応したネットワークアダプタが複数搭載されている場合の、それぞれの優先順位 ・「6.4.2 起動デバイスを変更する」(→P.78)
1st Boot Device	
[デバイス名]	
Boot Time Diagnostic Screen	「Disable」設定時は「FUJITSU」ロゴを表示
■ Disabled □ Enabled	
NumLock	Windowsログオン後は前回終了時の状態になる
■ On □ Off	
Halt On Error	POSTエラー検出時に起動停止する／しないの設定 ^{注2}
■ All Errors	
□ All, But Keyboard □ No Halt	
USB Legacy Support	
□ KB/MS	
□ Disabled	
■ Enabled	
Onboard LAN Boot	標準搭載のLANに対してのみ有効
■ PXE □ Disabled	

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
Event Logging	イベントログ
Event Log Capacity	イベントログ領域の状態
Event Log Validity	イベントログの状況
View Event Log > Enter	イベントログの表示 「6.4.4 イベントログを確認する」(→P.79)
Clear All Event Logs > Enter	イベントログの消去 ・【Enter】キーを押した後、「Yes」を選択して【Enter】キーを押すとクリア実行
Event Logging □ Disabled ■ Enabled	イベントログの記録

注1：ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

注2：本設定で停止しないよう設定したデバイスのエラーでも、エラーメッセージは表示されます。

6.3.4 Powerメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
AC Power Recovery <input checked="" type="checkbox"/> Always Off <input type="checkbox"/> Always On <input type="checkbox"/> Last State <input type="checkbox"/> Disabled	<ul style="list-style-type: none">・設定変更は、再起動後に正常にシャットダウンした後に有効・Always Off ……通電再開時に一瞬電源が入り、WOLなどを初期化。その後電源OFF。・Last State ……電源断発生時の状態による。 起動中、スリープは「Always On」 シャットダウン、休止状態は「Always Off」・注1
Wake up on LAN <input checked="" type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled	<ul style="list-style-type: none">・設定変更は再起動後に有効・注2・注3
Wake up on Time <input checked="" type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled	<ul style="list-style-type: none">・設定変更は再起動後に有効・注2・注4
Wake up Time 00 : 00 : 00 ~ 23 : 59 : 59	「Wake up on Time」が「Enabled」時のみ設定可能
Wake up Date 00 ~ 31	<ul style="list-style-type: none">・00……毎日指定時刻に起動・「Wake up on Time」が「Enabled」時のみ設定可能

注1：UPSなどを使って通電再開時に電源を投入させたい場合は、「Always On」に設定してください。

注2：「AC Power Recovery」を「Disabled」に設定した場合、停電などのAC電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで本機能は使用できなくなります。

注3：省電力状態（スリープ、休止状態）からレジューム（復帰）させることはできません。デバイスマネージャーでの設定が必要です。

注4：省電力状態（スリープ、休止状態）からレジューム（復帰）させることはできません。タスクスケジューラまたはタスクでの設定が必要です。

6.3.5 Securityメニュー

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
Supervisor Password Is	設定状況を表示
User Password Is	設定状況を表示
Set Supervisor Password > Enter	「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.75)
Set User Password > Enter	<ul style="list-style-type: none"> 管理者用パスワード設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.75)
Password on Boot ■Disabled □First Boot □Every Boot On Automatic Wake up ■Disabled □Enabled	<p>管理者用パスワード設定時のみ設定可能</p> <ul style="list-style-type: none"> LAN／タイマーなどによる自動ウェイクアップ時のパスワード要求有無を設定。 「Password on Boot」が「First Boot」または「Every Boot」時に設定可能
Hard Disk Security Drive0 Password Is	<p>電源投入直後にBIOSセットアップを起動した場合のみ設定可能。再起動後は設定不可。</p> <p>設定状況を表示</p>
Set Drive0 Password > Enter	<ul style="list-style-type: none"> 管理者用パスワード設定時のみ設定可能 「6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.75)
Password Entry on Boot □Disabled ■Enabled	<ul style="list-style-type: none"> 再起動時は本設定に関係なくパスワード入力の要求は無し 管理者用パスワード設定時のみ設定可能

6.3.6 Exitメニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
Exit Saving Changes	変更を保存して終了する（再起動）
Save & Turn-Off	変更を保存して終了する（電源OFF）
Exit Discarding Changes	変更を保存せずに終了する（起動） 注
Load Setup Defaults	<p>標準設定値を読み込む</p> <p>次の項目は対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時の設定（System Time／System Date） 管理者用パスワード（Supervisor Password Is） ユーザー用パスワード（User Password Is） ハードディスクパスワード（Drive0 Password Is）

注：確認画面で「Yes」を選択すると、変更が保存されてしまいます。「No」を選択してください。

6.4 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況に合わせてご覧ください。

- ・ BIOSのパスワード機能を使う (→P.75)
- ・ 起動デバイスを変更する (→P.78)
- ・ Wakeup on LANを有効にする (→P.79)
- ・ イベントログを確認する (→P.79)
- ・ ご購入時の設定に戻す (→P.80)

6.4.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

□ 管理者用パスワード (Supervisor Password)

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ ユーザー用パスワード (User Password)

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ ハードディスクパスワード

本パソコンのハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

■ パスワードを設定／変更／削除する

◀ 重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本パソコンを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶ 「管理者用パスワード」または「ハードディスクパスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」や「ハードディスクパスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

- 1** ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。
 1. 本パソコンの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
 2. BIOSセットアップを起動します（→P.65）。
- 2** 「Security」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
 - ・「Set Supervisor Password」（管理者用パスワード）
 - ・「Set User Password」（ユーザー用パスワード）
 - ハードディスクパスワードを設定する場合
 - ・「Set Drive n Password」
- 3** すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。「Enter New Password」にカーソルが移ります。
- 4** 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。
パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「Confirm New Password」にカーソルが移ります。
- 5** 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。
「Changes have been saved.」と表示され、パスワードが変更されます。
- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.67）

POINT

- ▶ パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。大文字、小文字は区別されません。
- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

POINT

- ▶ 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.67）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。また、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード

- ・ BIOSセットアップを起動するとき
- ・ 本パソコンを起動するとき
- ・ 休止状態からレジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。



- ハードディスクパスワード

- ・ 本パソコンを起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。



■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった

6.4.2 起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「Advanced」メニューの「Boot Device Priority」で設定します。

「1st Boot Device」～「4th Boot Device」に設定されている順にOSを検索します。同種のデバイスが複数接続されている場合は、別途それらの優先順位を設定します。

■異なるデバイス間の優先順位を変更する

- 1 「Advanced」メニューを選択します。
- 2 「Boot Device Priority」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。
- 5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.67)

■同種のデバイス間の優先順位を変更する

- 1 「Advanced」メニューを選択します。
- 2 デバイスに応じて次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・「Removable Drives」
 - ・「Hard Disk Drives」
 - ・「CD/DVD Drives」
 - ・「Network Boot」

POINT

- ▶ フロッピーディスクドライブの優先順位を変更する場合は、「Removable Drives」を選択します。

- 3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。
- 5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.67)

6.4.3 Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・リジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からリジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。省電力状態からリジュームする機能については、「■ WoL機能によるリジュームの設定を変更する」(→P.24)をご覧ください。

- 1 「Power」メニューを選択します。
- 2 「Wake up on LAN」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「Enabled」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.67)

6.4.4 イベントログを確認する

- 1 「Advanced」メニューを選択します。
 - 2 「Event Logging」を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 3 「View Event Log」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。
- イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.106)の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

6.4.5 ご購入時の設定に戻す

- 1** 「Exit」メニューを選択します。
- 2** 「Load Setup Defaults」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3** 「Yes」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
 - 「Load Setup Defaults」で変更されない項目
 - ・日時の設定 (System Time／System Date)
 - ・管理者用パスワード (Supervisor Password Is)
 - ・ユーザー用パスワード (User Password Is)
 - ・ハードディスクパスワード (Drive0 Password Is)
- 4** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.67)

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ	82
7.2 定期的なお手入れ	83

7.1 日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまつたりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

7.2 定期的なお手入れ

長期間パソコンを使用していると、通風孔やパソコン内部にほこりがたまります。ほこりがたまつた状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。

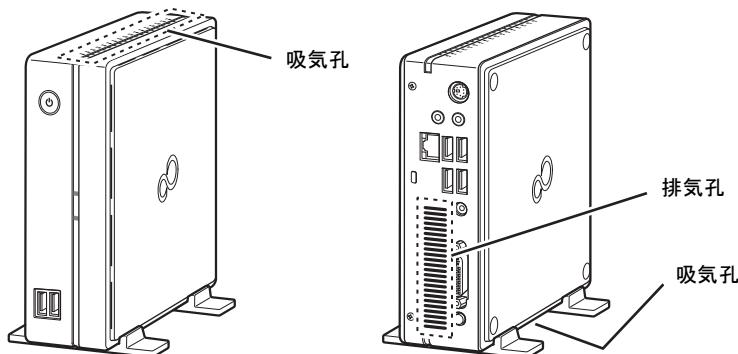
7.2.1 注意事項

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。
- パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
パソコン本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまつた静電気によって破壊される場合があります。

7.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る

パソコン本体の通風孔（吸気や排気）、光学ドライブなどの開孔部にはこりがたまると、故障の原因となります。

通風孔などに付着したほこりは、掃除機で吸い取ってください。



7.2.3 パソコン本体内部のほこりを取る

パソコン本体内部や吸気孔などにほこりがたまつた状態で使い続けると、パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

パソコン本体内部や吸気孔のほこりは、掃除機で吸い取ってください。

※ 重要

- ▶ パソコン本体内部の突起物には、手を触れないでください。けがや故障の原因となります。

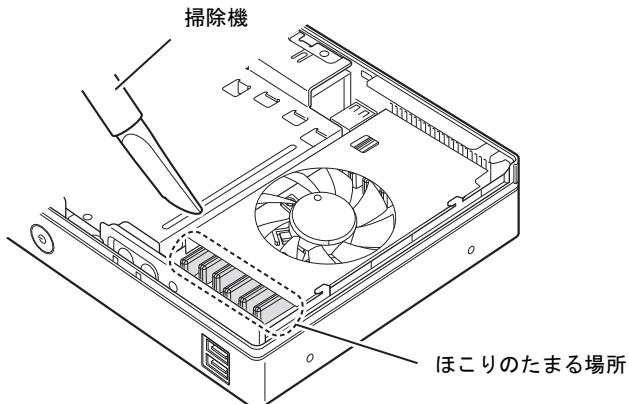
1 本体カバーを取り外します（→P.31）。

2 パソコン内部のほこりを、掃除機で吸い取ります。

イラスト点線部がほこりのたまる場所です。

※ 重要

- ▶ ほこりを取るときは、ファンの羽根に触れないようにしてください。



3 本体カバーを取り付けます（→P.32）。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあつたときの対処方法について説明しています。

8.1 トラブル発生時の基本操作	86
8.2 よくあるトラブルと解決方法	91
8.3 それでも解決できないときは	109

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、パソコンが正常に動作しないことがあります。
この他、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.93) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 セーフモードで起動する

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。

起動方法は次のとおりです。

- 1 本パソコンの電源を入れます。**
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「詳細ブートオプション」が表示されます。
【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**
- 4 管理者権限をもったユーザーアカウントでログオンします。**
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ セーフモードでも起動できない場合
手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

8.1.4 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」(→P.91)は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.5 Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.6 インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>) では、本パソコンで発生したトラブルの解決方法を提供しています。

また、富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。

注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.7 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。

まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

診断時間はおよそ5～10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

■ 重要

- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.4.5 ご購入時の設定に戻す」(→P.80)をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 本パソコンの電源を入れます。

Kシリーズの場合、【F12】キーを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

Kシリーズの場合、ビープ音が鳴ったら【F12】キーを離します。

起動メニューが表示されます。

POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力後、認証画面が消えたらすぐに【F12】キーを押してください。
- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。

3 カーソルキーで「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。

Kシリーズの場合、【Tab】キーを押してアプリケーションメニューを表示し、カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

診断時間は、メモリの搭載容量によっては長時間かかる場合があります。

メモリの1GBの診断時間は1～2分です。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● **トラブルが検出されなかった場合**

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。【Enter】キーを押してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6に進んでください。

● **トラブルが検出された場合**

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押してパソコンの電源をお切りください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

 **POINT**

- ▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。

診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

12 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

8.1.8 サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」(→P.109)をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→P.93)
- 「ビープ音が鳴った」 (→P.93)
- 「メッセージが表示された」 (→P.94)
- 「画面に何も表示されない」 (→P.94)
- 「Windowsが起動しない」 (→P.95)
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」 (→P.95)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにログオンできない」 (→P.96)
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」 (→P.96)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.96)
- 「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」 (→P.97)
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」 (→P.97)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」 (→P.98)

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→P.98)
- 「通信速度が遅い」 (→P.98)

□ ハードディスク

- 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→P.99)

□ デバイス

- 「機器が使用できない」 (→P.99)

□ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→P.99)
- 「ディスクが取り出せない」 (→P.100)
- 「WinDVDが起動しない」 (→P.100)
- 「ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない」 (→P.100)

□ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」（→P.101）
- 「表示が乱れる」（→P.101）

□サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.102）
- 「マイクからうまく録音ができない」（→P.102）

□ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.103）
- 「タッチパネルのポインター位置がずれる」（→P.103）

□USB

- 「USBデバイスが使えない」（→P.103）
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.104）

□プリンター

- 「プリンターを使用できない」（→P.104）

□パソコン本体のお手入れ（お手入れナビ搭載機種）

- 「「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にはこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された」（→P.104）
- 「「パソコンのCPUファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された」（→P.104）

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.105）

8.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？（Dシリーズ、Kシリーズの場合）
- ACアダプタは接続されていますか？（Bシリーズの場合）
- パソコン本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？（Dシリーズ、Kシリーズの場合）
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。
ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、
1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
 - ・メモリのテストエラー
メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
 - ・PCIデバイス上でのROMエラー
PCIデバイス上のROMでエラーが発生しています。オプションのPCIカードを取り付けている場合は、正しく取り付けられているか確認してください。
- メモリテストエラーの場合や、ディスプレイカード上のROMにエラーが発生した場合、
画面には何も表示されません。

上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、
またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元
に確認してください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.106）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.106）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- 周辺機器の取り付けを確認してください。
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。
上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 電源ランプが点灯していますか？
電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.93）をご覧ください。
- ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。（Dシリーズ、Bシリーズの場合）
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していないませんか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
 - ・パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
 - ・グラフィックスカード搭載機種の場合、パソコン本体のディスプレイコネクタにケーブルを接続していませんか？
パソコン本体のコネクタは使用できません。グラフィックスカードのコネクタに接続してください。
- 外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。（Kシリーズの場合）
 - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
 - ・パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
 - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
「2章 取り扱い」（→P.16）の「マルチディスプレイ機能」をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

- ・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
「2章 取り扱い」(→P.16)の「マルチディスプレイ機能」をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。



Windowsが起動しない

- Windows起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？
 - ・セキュリティチップ認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。



Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押し、「シャットダウン」をクリックします。この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。

重要

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにログオンできない

- セキュリティチップを使用してWindowsにログオンしている場合、BIOSセットアップの設定を次のようにすると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
 - ・「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。



ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
 - ・ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。
 - ・Cドライブの空き容量が充分か確認するWindowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
 - Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
 - ・ごみ箱を空にする
 - ・不要なファイルやソフトウェアを削除する
 - ・ディスクのクリーンアップを行う
 - ・ハードディスクのエラーチェックを行うそれでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。



Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった

- 24時間モデルをお使いの場合は、再起動してください。問題が解決する場合があります。
- RAID搭載機種の場合、リビルド中は充分なI/O処理性能が得られないため、ディスクアレイの状態によってシステムのパフォーマンス速度が低下します。
『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。

対象 D581シリーズの24時間モデル

- 通風孔などにほこりが付着し、パソコンの内部が高温になっている可能性があります。
「7.2 定期的なお手入れ」(→P.83) をご覧になり、パソコンのお手入れをしてください。



「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- 「IndicatorUtility」で使用される「FUJ02B1デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。(Kシリーズの場合)
「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02B1 DeviceDriver」が表示されているかを確認してください。
表示されていない場合は、「FUJ02B1デバイスドライバー」をインストールしてください。
インストール方法は、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
 1. 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
 2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
 3. 「種別」に「ユーティリティ」を設定します。
 4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02B1 Device Driver」を選択します。
 5. 「内容」の「Driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
- 富士通拡張機能ユーティリティで使用される「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。
「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかを確認してください。
表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。
インストール方法は、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
 1. 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
 2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
 3. 「種別」に「ユーティリティ」を設定します。
 4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02E3 Device Driver」を選択します。
 5. 「内容」の「driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

8.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れる、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
ハードディスクパスワードを忘れる、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
いずれの場合も修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」(→P.77)をご覧ください。

■ LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - 使用するネットワーク環境に合ったケーブルをお使いください。
- 無線LAN電波オン／オフツールでオンに設定されていますか？(無線LAN搭載機種の場合)

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。

■ ハードディスク



ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・Windowsを終了した直後
 - ・省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
 - ・パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - ・中断した状態から再度パソコンを操作した場合
 - ・パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
システム管理者に確認してください。

- ・USB
- ・CD/DVD
- ・フロッピーディスク
- ・シリアル
- ・パラレル

■ CD/DVD



ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？

ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2章 取り扱い」（→P.16）の「ディスクをセットする」をご覧ください。

- ディスクが汚れていますか？

汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

- ディスクが傷付いていますか？

ディスクを交換してください。

- 規格外のディスクを使用していますか？

規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2章 取り扱い」（→P.16）の「使用できるディスク」をご覧ください。



ディスクが取り出せない

- パソコン本体は動作状態になっていますか？

本パソコンの光学ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2章 取り扱い」(→P.16) の「ディスクを取り出す」をご覧ください。



WinDVDが起動しない

- 市販されているウイルス対策ソフトウェアを起動していませんか？

市販されているウイルス対策ソフトウェアと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトウェアを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートンアンチウイルス」は問題ありません。

- 自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェア（市販）をインストールしていませんか？

自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェアをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。

ウイルス対策ソフトウェアをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「ノートンアンチウイルス」は問題ありません。



ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない

- 「WinDVD」を使用して、ディスクを再生していますか？

「WinDVD」以外のソフトウェアで再生した場合、円滑に再生できないことがあります。

- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応したデジタルディスプレイを使用していますか？

デジタルディスプレイをお使いの場合、接続しているディスプレイがHDCPに対応していないと、著作権保護のされた映像を再生できません。HDCPに対応したデジタルディスプレイをお使いください。

- 「WinDVD」での再生時は、著作権保護された映像をパソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示することはできません。

ディスクの再生方法や「WinDVD」の注意事項については、「2章 取り扱い」(→P.16) の「DVD-Videoを再生する」をご覧ください。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.93) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。
詳しくは「2.4 省電力」(→P.23) をご覧ください。



表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
「2.2.2 解像度を変更する」(→P.18) をご覧になり、正しく設定してください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ソフトウェアを最小化します。
 2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
「5.2 インストール」(→P.59) をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください(→P.87)。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。（スピーカー内蔵機種）
 - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
スピーカーの出力を確認してください。
 - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、またはヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・パソコン本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、またはヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「2.3 サウンド」（→P.20）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「5.2 インストール」（→P.59）をご覧になり、再インストールしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.3 サウンド」（→P.20）をご覧ください。
- 録音を行いたいマイク端子が有効になっていますか？
マイク端子が複数ある場合、後から接続したマイク端子が有効になります。両方にマイクを接続した状態で電源を入れると、背面のマイク端子が有効になります。
また、音声を録音する機器が複数利用可能な場合、「2章 取り扱い」（→P.16）の「既定のオーディオ機器を選択する」をご覧になり、録音を行いたいマイク端子を既定のオーディオ機器に設定してください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（マウス（ボール式）の場合）
「7.1 日常のお手入れ」（→P.82）の「マウス（ボール式）」をご覧になり、マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- キーボードは正しく接続されていますか？
キーボードとマウスをPS/2ポートに接続している場合、キーボードが正しく接続されていなくてもWindowsは起動しますが、マウスポインターは動きません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
- 次のようなものの上で操作していませんか？（光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合）
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



タッチパネルのポインター位置がずれる

対象 タッチパネル搭載機種

- タッチパネルを調整してください。調整方法については「2章 取り扱い」（→P.16）の「キャリブレーション」をご覧ください。

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.99）



USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」
 2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルクリックします。
「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.99）

■ プリンター



プリンターを使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.99）
プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体のお手入れ（お手入れナビ搭載機種）



「パソコン内部の空気の流れがさえぎられ、高温になっています。」「パソコンの空冷用通風路にはこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された

- ファンが高速に回転しているのに、パソコン本体内部の温度が低くならない場合に表示されます。
「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、パソコンをお手入れしてください。お手入れ方法については、「7章 お手入れ」（→P.81）をご覧ください。



「パソコンのCPUファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された

- パソコン本体内部の温度が高くなっているにもかかわらず、ファンの回転数が低下している場合に表示されます。
「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

■ その他



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。

8.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。エラーメッセージ一覧には、お使いのパソコンに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
B	
Boot Failure Press any key to continue	OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
C	
CPU Fan Error	CPUファンが壊れていないこと、ファンの電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。確認後、BIOSセットアップを起動し、「Exit」メニューの「Exit Saving Changes」または「Exit Discarding Changes」を実行してください。CPUファンが正しく取り付けられている状態で本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Check date and time settings	日付/時刻がリセットされました。 BIOSセットアップを起動して、正しい日付/時刻を設定してください。
CD/DVD Medium is not set.	起動メニューからCD/DVD ドライブを選択した場合に、CD/DVD ドライブに何も媒体がセットされていない場合に表示されます。 起動可能なCD/DVD媒体をセットして、何かキーを押してください。
F	
Floppy Medium is not set.	起動メニューからUSB フロッピードライブを選択した場合に、USB フロッピードライブに何も媒体がセットされていない場合に表示されます。 起動可能なフロッピー媒体をセットして、何かキーを押してください。
K	
Keyboard/Interface Error.	キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。 また、キーボードを接続せずに使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Halt On Error」を「All, But Keyboard」に設定してください。
N	
Non - System disk or disk error Replace and press any key to ready	フロッピーディスク ドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスク ドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
P	
Please Put Bootable CD/DVD.	起動メニューからCD/DVD ドライブを選択した場合に、CD/DVD ドライブにセットされている媒体が起動可能な媒体ではない場合に表示されます。 起動可能なCD/DVD媒体をセットして、何かキーを押してください。
Press F1 to resume Press F2 to Run Setup	POST中にエラーが発生するとOSを起動する前に本メッセージが表示されます。 【F1】キーを押すとOSの起動を開始します。【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。

メッセージ	解説
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Onboard LAN Boot」を「Disabled」に設定してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスク ドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
S	
System CMOS checksum bad	CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。本パソコンを起動するたびに本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
System Disabled.	誤ったパスワードが3回入力されました。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「Advanced」メニューの「Event Logging」の「View Event Log」から確認できます。

BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
D	
Diagnostic Program found error (Code=nnnnnnnn)	診断プログラムがエラーを検出しました。 診断コードを記録し、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
P	
Password Failure	間違ったパスワードが3回入力されたため、パソコンの起動を中断しました。
POST Error: CMOS Checksum Error	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POST Error: CMOS Time Not Set	日付、時刻が正しく設定されていません。 「System Time」「System Date」の設定を確認してください。
POST Error: CPU Fan Error	CPUファンのテストでエラーが発生しました。 CPUファンのケーブルが正しく接続されているか、またCPUファンの回転部分にケーブルや異物が挟まっていないか確認してください。
POST Error: Keyboard Not Functional	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

● ノートン アンチウイルス

株式会社シマンテック

シマンテック・テクニカル・サポートセンター

- ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
- ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。

（更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）

詳しくは、製品別サポートページ (<http://symss.jp>) を参照のうえ、お問い合わせください。

更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。

シマンテック・ストア

URL : <http://www.symantecstore.jp/users.asp>

● i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334

受付時間：10:00～18:00（年末年始、指定休業日を除く）

URL : <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム：<http://www.daj.jp/ask/>

90日間の試用期間中、サポートいたします。

● Adobe Reader

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● Windows Live メール／Windows Live Messenger

日本マイクロソフト株式会社「Windows Live Solution Center へようこそ」のWindows Live メールのヘルプページ（<http://www.windowslivehelp.com/>ページで「メール」をクリック）からお問い合わせください。

- ・Mailポータルの 解決策、フォーラム、および語句検索から疑問点の解決方法を検索します。
- ・疑問点の解決方法を検索し、解決しないときは各ページの「質問する」リンクからお問い合わせください。

● Silverlight

日本マイクロソフト株式会社 Silverlight サポートページ（URL：<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=199242>）からお問い合わせください。

- ・ページ右側の「お問い合わせ」の下にある「マイクロソフトへ問い合わせる」をクリックし、画面の指示に従って、お問い合わせください。

● Quality Gaaiho PDF Suite

クオリティソフト株式会社

e-mail : sales@quality.co.jp

電話番号 : 0120-359-217

サポート時間 : 9:00-17:00

● CRYSTAL REPORTS 2008 for FUJITSU

富士通株式会社

BI OnDemand サポートデスク

ERP事業本部 BI ソリューション部

ユーザーサポートサイト

URL : <http://www.biondemand.jp/support/customer/pcbundle.html>

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様	112
9.2 CPU	115
9.3 ディスプレイ	116
9.4 コネクタのピン配列と信号名	117

9.1 本体仕様

9.1.1 B531/D

製品名称		ESPRIMO B531/D		
CPU ^{注1}	名称	インテル® Core™ i3-2120T プロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー G530T	
	動作周波数	2.60GHz	2.00GHz	
	コア数／スレッド数	2／4	2／2	
	キャッシュメモリ	2次：256KB×2 3次：3MB	2次：256KB×2 3次：2MB	
チップセット		インテル® H61 Express		
システムバス		5GT/s DMI ^{注2}		
メインメモリ		標準2GB（2GB×1）（PC3-10600 DDR3 SDRAM SO-DIMM CL9 ECCなし） ^{注3} 最大4GB ^{注4}		
メモリスロット		×2（空きメモリスロット×1）		
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 2000（CPUに内蔵）	Intel® HD Graphics（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ	Windows 7 (64ビット版)	最大788MB（メインメモリと共に） ^{注5}	
		Windows 7 (32ビット版)	最大785MB（メインメモリと共に） ^{注6}	
	解像度／発色数	最大1920×1200 ドット／最大1677万色		
DirectX		10.1		
OpenGL		3.0		
ハードディスクドライブ ^{注7}		160GB（Serial ATA、7200rpm）		
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時） ^{注8} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注8} 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート		
通信機能	LAN	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠 ^{注9} 、Wakeup on LAN対応 ^{注10}		
	無線LAN ^{注11}	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56)（Wi-Fi® 準拠） ^{注12}	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注13}	
セキュリティ機能		盗難防止用ロック取り付け穴		
		あり		

製品名称		ESPRIMO B531/D		
インターフェース	外部ディスプレイ	DVI-I		
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 ミニ DIN 6 ピン×1 (キーボード用×1)		
	USB ^{注14}	USB2.0 準拠×6 (前面×2、背面×4)		
	LAN	RJ-45×1		
	オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用 ^{注15}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、負荷インピーダンス10kΩ以上	
		マイク・ラインイン兼用 ^{注16}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス (AC) 1kΩ以上 (DC) 2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、入力インピーダンス10kΩ以上	
自己診断 (POST) 時		CPU ファン停止検出		
拡張ベイ		Mini-PCIe ×1 (無線LAN専用) (空きベイ×1) ^{注17}		
ストレージベイ	2.5インチベイ	内部×1 (空きベイ×0)		
電源供給方式	ACアダプタ ^{注18}	本体添付：入力AC100V～240V、出力DC19V (4.22A)		
消費電力	電源オフ時 ^{注19}	1.3W		
	動作時 ²⁰ (通常時／最大時 ²¹ ／ スリープ時)	無線LAN 非搭載機種	約17W／約51W／約1.8W	
		無線LAN 搭載機種	約17W／約52W／約1.9W	
	最大消費電力	約100W		
定格電流	動作時	最大1.1A		
外形寸法 (突起部含まず)	縦置き	W 53×D 168×H 168mm W 90×D 168×H 175mm (フット装着時)		
	横置き	W 168×D 168×H 53mm		
質量		約1.3kg		
電波障害対策		VCCI クラスB		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、 製品情報の仕様をご覧ください。		
国際エネルギースタープログラム ^{注22}		対応 ^{注23}		
温湿度条件		温度10～35°C／湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60°C／湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)		
プレインストールOS ^{注24}		Windows® 7 Professional (32ビット版) 正規版 ^{注25}		
サポートOS ^{注24注26}		Windows® 7 Enterprise (64ビット版) 正規版 ^{注25} 、 Windows® 7 Enterprise (32ビット版) 正規版 ^{注25} 、 Windows® 7 Professional (64ビット版) 正規版 ^{注25} 、 Windows® 7 Professional (32ビット版) 正規版 ^{注25}		

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 : ・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。

・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」(→P.115)をご覧ください。

注2 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。

注3 : インテル® Celeron® プロセッサー G530Tの場合は、PC3-8500で動作します。

注4 : ・Windows 7 (64ビット版)以外の場合、4GB搭載してもOSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。

ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。

・Windows 7 (64ビット版)以外の場合、合計で2GBを超えるメモリを搭載したときは、完全メモリダンプを使用できません。

- 注5 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大788MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1696MB
- 注6 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。
・メインメモリ2GBの場合：最大785MB
・メインメモリ4GBの場合：最大1301MB
- 注7 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注8 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注9 : 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリ-5（カテゴリ-5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注10 : 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN機能は使用できません。
・Wake up on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本パソコンの有線LANインターフェース
・本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ替えたり、ポートの設定を変えたりするとWake up on LAN機能が動作しない場合があります。
・省電力状態からのWake up on LAN機能を使用するには「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.24)をご覧ください。
・電源オフ状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「6.4.3 Wakeup on LANを有効にする」(→P.79)をご覧ください。
- 注11 : 無線LAN搭載機種のみ。
- 注12 : Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注13 : IEEE 802.11n準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注14 : すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注15 : ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。ラインアウトに設定するには「2.3.4 オーディオ端子の機能を切り替える」(→P.22)をご覧ください。
- 注16 : ご購入時はマイク入力に設定されています。ラインインに設定するには「2.3.4 オーディオ端子の機能を切り替える」(→P.22)をご覧ください。
- 注17 : 無線LAN専用スロットです。無線LAN搭載機種の場合、「空きペイ×0」になります。
- 注18 : 標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると、故障する場合があります。
- 注19 : 消費電力を0にするには、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注20 : ご使用になる機器構成により値は変動します。
・標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。
- 注21 : 本パソコンに搭載可能な周辺機器の最大構成で測定しています。
・測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注22 : 「国際エネルギーestarプログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注23 : 当社は、国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
- 注24 : 日本語版。
- 注25 : Windows® 7 Service Pack 1。
- 注26 : 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。



9.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

機能	インテル® Core™ i3-2120T プロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー G530T
インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー	○	×
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○	○
拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー (EIST)	○	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○	○

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」(→P.26)をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止(DEP)機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

データ実行防止(DEP)機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称]は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 解像度

本パソコンが出力可能な解像度です。

お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。

発色数は、「16ビット」(約6万5千色) または「32ビット」(約1677万色) が選択できます。

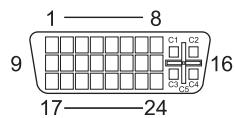
解像度	対応	水平走査周波数 (kHz)	リフレッシュレート (Hz)
800×600	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×1024	○	64.0	60
		80.0	75
		91.1	85
1440×900	○ ^{注1}	55.9	60
1600×1200	○	75.0	60
		93.8	75
		106.3	85
1680×1050	○ ^{注1}	64.7	60
1920×1080	○ ^{注1}	67.0	60
1920×1200	○ ^{注1}	74.0	60

注1：お使いの外部ディスプレイのパネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

9.4 コネクタのピン配列と信号名

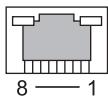
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ DVI-Iコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル2-
2	TX2+	出力	データチャンネル2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	Reserved/TX4-	—／出力	データチャンネル4-
5	Reserved/TX4+	—／出力	データチャンネル4+
6	DDC Clock	入出力	DDCクロック
7	DDC Data	入出力	DDCデータ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル1-
10	TX1+	出力	データチャンネル1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	Reserved/TX3-	—／出力	データチャンネル3-
13	Reserved/TX3+	—／出力	データチャンネル3+
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル0-
18	TX0+	出力	データチャンネル0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	Reserved/TX5-	—／出力	データチャンネル5-
21	Reserved/TX5+	—／出力	データチャンネル5+
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック+
24	TXC-	出力	データクロック-
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog Horizontal Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

■ LAN コネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



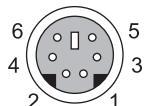
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

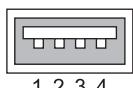
■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	Reserved	—	本パソコン固有の信号が割り当てられています。注
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

注：ケーブル側コネクタの2ピンがNC（未接続）になっていないキーボードは、使用しないでください。

■ USBコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- ハードディスクのデータを消去していますか？
パソコン本体に搭載されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
ハードディスク内のデータ消去については、「4.5 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.46）をご覧ください。
- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
 - ・法人、企業のお客様へ
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。
 - ・個人のお客様へ
本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（<http://azby.fimworld.net/recycle/>）をご覧ください。

索引

A

Adobe Reader 54, 109

B

BIOS

- イベントログ 79, 108
 - エラーメッセージ 106
 - パスワード 75
- BIOSセットアップ 64
- 起動する 65
 - 終了する 67

C

CPU 115
 CRYSTAL REPORTS 2008
 for FUJITSU 54, 110

D

DEP 115
 DVI-Iコネクタ 117

E

Easy Backup2 49, 54
 EIST 115

G

Googleツールバー 54

I

IndicatorUtility 54
 i-フィルター 52, 61, 109

L

LAN 28
 LANコネクタ 39, 118

M

Microsoft Office 58, 61

P

PC乗換ガイド 53
 Plugfree NETWORK 54
 Portshutter 43, 52

Q

Quality Gaaiho PDF Suite 54, 61, 110

R

Roxio Creator 57

S

SMARTACCESS/Basic 52, 61
 Systemwalker Desktop Patrol Lite 55

T

T-SATA2R Manager 55

U

UpdateAdvisor 42, 53
 USBコネクタ 38, 119

W

Wake up on LAN 24, 79
 Windows Live Messenger 55
 Windows Live メール 57, 110
 Windows Update 42
 WinDVD 57

あ行

アンインストール 62
 イベントログ 79, 108
 インストール

- i-フィルター 61
- Microsoft Office 61
- Quality Gaaiho PDF Suite 61
- SMARTACCESS/Basic 61
- ノートン アンチウイルス 61

 インテル(R) バーチャライゼーション・
 テクノロジー 115

インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー	115
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	44, 115
エラーメッセージ	94, 106
オーディオ端子	39
一切り替え	22
お手入れナビ	55
お問い合わせ先	109
音量調節	
一機器／項目	21
－全体	20
－ソフトウェア	20
音量ミキサー	20
か行	
解像度	18, 116
拡大表示設定	19
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)	115
キーボード	
－お手入れ	82
キーボードコネクタ	118
起動デバイス	78
起動メニュー	68
コンピューターウイルス	41
さ行	
サポートナビ	53
シャットダウン	25
省電力	
－省電力状態	23
－省電力設定	26
－省電力ユーティリティ	55
診断プログラム	88
セーフモード	87
セキュリティ施錠金具	45
セキュリティチップ	43
た行	
ディスプレイ	18
－解像度	116
－解像度の変更	18
－拡大表示設定の変更	19
ディスプレイコネクタ	37
ディスプレイの電源を切る	27, 55
データ実行防止 (DEP) 機能	115
電源プラン	26
電源を切る	25
盗難防止用ロック	45
ドライバーズディスク検索ツール	59
な行	
ナノイーユーティリティ	56
ノートンアンチウイルス	41, 52, 61, 109
は行	
ハードディスクパスワード	75
廃棄	46, 120
ハイブリッドスリープ	25
パスワード	
－BIOS	75
バックアップ	49
ビープ音	93
富士通拡張機能ユーティリティ	56
富士通モニタユーティリティ	56
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子	39
本体カバー	31
ま行	
マイク・ラインイン兼用端子	39
マウス	
－お手入れ	82
無線LAN	28
無線LAN電波オン／オフツール	56
メモリ	
－取り付け	34
－取り外し	36
や行	
ゆったり設定2	56
ら行	
リサイクル	120
レジューム	24

ESPRIMO
B531/D

製品ガイド
B6FJ-7641-01-00

発行日 2011年12月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。